

家計簿の選択傾向に関する研究

藤 居 由 香

A Study on Household Budgeting Practices

Yuka Fujii

1. 研究の背景及び目的

日本銀行の金利が低く、景気低迷が叫ばれる昨今、限られたお金を、どのように有効に使うかということが課題である。そのためには、現在の家計の状況をまず把握した上で、分析を行い、対策を講ずることが必要不可欠である。家計管理をする上では、現在の状況の記録をとることが最初に行うべきことであろう。

本研究では、家計の状況を把握することと、その後の家計管理の方法として、家計簿に着目する。実際の家計はどのような状況なのか、そして、家計を管理するのに適した家計簿とはいかなるものか、また、その選択の傾向について探るのが、本研究の目的である。

2. 「家計簿ノート」の記載

家計の状況を知るために、3ヶ月間の「家計簿ノート」記載を依頼した。対象は、本学生活文化学科2年生200名であり、記帳期間は、1999年10月18日～2000年1月17日までの、3ヶ月間である。「家計簿ノート」とは、市販のB5版大学ノートを使用したものである。記入例は表2.1で示す通りである。尚、表内の項目にある、「場所・事柄」欄は、筆者のオリジナルである。

表 2.1 「家計簿ノート」記入例

日付	場所・事柄	摘要	収入	支出	残高	備考
10/18		初期金額	2,586	0	2,586	
〃	学食・昼食	日替りランチ		400	2,186	
〃	自販機	煎茶		110	2,076	
〃	生協	電池		288		合わせて 302円支払
〃	〃	消費税		14	1,774	
10/20	銀行	現金引き出し	5,000		6,774	

ここでいう初期金額とは、10月18日に財布に在中していた現金の額である。つまり、この調査における残高は、どんな状況であれ、財布の中の現金の額である。例えば、貯蓄の場合は、支出という扱いになる。自宅の引き出しにしまっておいた貯金を使用する場合は、場所欄が「引き出しから」になる。財布の中に入れた金額のみ、収入として扱うので、残高は、本人貯蓄の全額ではない。消費税については、外税のもののみ分けて記載し、内税のものは、含まれたままで、あえて逆算出は行わない。

3ヶ月間の所用ページ数は、最も少ないもので2頁、最も多いもので36頁であった。

3. 一ヵ月間の家計の状況

「家計簿ノート」の記載期間の中でも、1999年11月1日～31日の一ヵ月を抽出し、集計を試みた。

表 3.1 平均額一覧表 (n=200)

	収 入	支 出	飲食費	衣料費	書籍費
金 額 (円)	63,592	62,371	11,760	12,441	1,245
支出に占める割合(%)	102.0%	100.0%	18.9%	20.0%	2.0%

収入は、仕送り、アルバイト、お小遣いと3つに分類される。自宅生と下宿生とを分けて分類していないので、飲食費は全食分ではない。書籍費は、教科書代は除いたものであり、コミック、雑誌等を含有している。表3.1から、学生の支出として衣料費が高く、書籍費の10倍かかっていることがわかる。住まい関連費は見あたらず、学生の家計においては、あまり重要なものとみなされていないことがわかる。

4. 家計簿選択の傾向

「家計簿ノート」を記入し、1ヶ月間の集計をした後、各人に市販の家計簿を選ばせた。条件としては、「それぞれの性格に合うと思われるもの」「他の市販のものとはどこが違うから良い」と思い選んだのか」を負荷としてかけた。

表 4.1 家計簿の発行所選択の傾向 (n=200)

発 行 所 名	全体に占める割合 (%)
高 橋 書 店	23.5%
永 岡 書 店	13.5%
婦 人 生 活 社	9.0%
オ レ ソ ン ジ ペ ー ジ	6.0%
日本能率協会マネジメントセンター	6.0%
コ ク ヨ	4.5%
ときわ総合サービス(貯蓄広報中央委員会)	4.0%
講 談 社	3.5%
産 能 大 学 出 版 部	3.0%
サ ン リ オ	3.0%

発行所別にみると全部で36社が選出された。そのうち、上位10社のみ、表4.1に掲載した。高橋書店は、手帳や、日記の老舗のため、日記に近いタイプの家計簿が多く発行されている。永岡書店は、貯蓄するための工夫を凝らした家計簿が多いのが特徴である。家計簿は、書店、文具店、スーパーマーケットなど、様々な場所で売られている。そのため、発行所も、出版社、文具メーカー、キャラクターグッズメーカーから、日本銀行の外郭団体である貯蓄広報中央委員会など、多岐にわたる場所で作られている。よって、家計簿は、書籍ともノートとも判別しにくい、分類難の商品といえるのではなかろうか。

表 4.2 金額による家計簿選択の傾向 (n=200)

	平均値	最高値	最低値	中央値
金額(円)	733	1,800	100	700

家計簿の金額による選択の傾向は表4.2の通りである。1,000円以上の家計簿を選んだ割合は、16.5% (n=33) のため、家計簿の質を追求しつつも、1,000円以内で、入手する傾向がある。

大きさ別の選択の傾向 (n=200) は、B5判が93 (46.5%)、A5判が66 (33.0%)、変A4判が25 (12.5%) の順である。携帯することを考え、A6判を選ぶ場合もあるが、どちらかという、大きめの家計簿を自宅で記入しようとする傾向にあるようである。

厚さ別の選択の傾向 (n=200) は、10mmが57 (28.5%)、8mmが50 (25.0%) の順で、平均が7.48mmである。週ごとにまとめるものや、10日間刻みで集計を必要とする家計簿もあるが、多くは、1ヶ月単位の集計で、しかも、金銭出納帳とは異なり、費目別の集計を行うタイプのものである。その結果、1年間記入できる必要枚数を備えると、8mm程度の厚さになる。

表 4.3 家計簿の種類別選択の傾向 (n=200)

家計簿名	発行所	全体に占める割合(%)
らくらく家計ノート 2000	婦人生活社	7.5%
いきいき家計簿 32	高橋書店	5.5%
オレンジページ シンプル家計簿	オレンジページ	5.0%
ぜったい貯蓄したい人のカンタン家計目標ステップアップノート	永岡書店	4.5%
ライフスタイルを大切にしたいわたしの家計簿 30	高橋書店	4.5%
ためる・たまる家計簿ノートブック	永岡書店	4.0%
ラクチン家計簿	永岡書店	3.0%
やさしい家計簿 35	高橋書店	3.0%
やりくり・かんたん かけいほ 37	高橋書店	3.0%
明るい生活の家計簿 (貯蓄広報中央委員会)	ときわ総合サービス	2.5%
フレッシュ家計簿 36	高橋書店	2.5%
かんたん家計ノート	講談社	2.5%

家計簿の種類別の選択の傾向は、表4. 3の通りである。全部で77種類の家計簿が選出された。選択理由は、各人様々であるが、前述の飲食費の詳細な内容によって、大きな差が生じることがわかった。飲食費の多くが、ファーストフードでの食品購入の場合、家計簿の飲食欄に記入する量は少なく済む。そのため、家計簿に細かい食品別の欄のあるようなものは選ばない。このように、家計簿を選ぶ場面においては、収入額よりも、どのような食生活を営んでいるかが、大きく影響しているといえるであろう。

5. 市販の家計簿の特徴

特徴のある家計簿としては、何か別の機能を付加するタイプのものがあった。例えば、日記付き、レシート収納付き、封筒分け管理用の封筒付き、料理レシピ付き、豆知識付きなどである。また、日付けについては、最初から日付け入りものと自記式とに二分されている。中には、天気を書く欄まで設けてあるものもある。時代を反映する項目として、インターネット費の欄がつけられていたものも見られた。全体に言えることは、現在使える金額を知ることにはこだわると、費目別の支出がわかりにくく、費目別の支出にこだわると、現在使える額が把握しにくいということが挙げられる。この点についての分水嶺は、「家計簿ノート」を記入した際に、費目別の支出の小計を知りたいと考えた場合は、費目別の家計簿を選び、常に残高で支出具合を知りたいと考えた場合は、市販の金銭出納帳に近いものを選ぶというように顕著な影響がみられた。

秀逸なものとしては、電気等の公共料金の額を、巻末の一覧表に記載し、その際に、前年度の額を記入できるものがあった。このことにより、前月に比べてどうか、また、季節毎にエネルギー需要は異なるので、前年とを同時に比較することで、無駄遣いであったのか、妥当であったのかを判断することが可能であった。さらに、分析しやすくするために、巻末にグラフ欄があり、毎月の変動をビジュアルに把握できるものもあった。

また、家計簿ごとに狙いは異なっており、貯蓄を推奨するものもあれば、日々の記録を重視するもの、食費の欄が充実していて、食生活や栄養バランスを考えさせるものなど様々である。中には、子供と教育にかかる経費をエンゼル費と呼び、その支出を重要視するものもあった。

6. ま と め

これまでのことから、家計簿の選択の傾向として、以下のことが明らかになった。製品としては、B5判、厚さ8mm程度で、700円代で、高橋書店または永岡書店発行の家計簿を選ぶ傾向にある。内容としては、各人の生活状況を反映し、記入欄のスペースを検討する傾向がある。また、実際、自分の家計を「家計簿ノート」に記入し、1ヶ月間の集計をすることにより、自分が、どの費目の支出が多く、どのような部分に留意し、家計管理をしたいかが、家計簿の選択に影響を与えることが明らかになった。

今後の課題としては、市販の家計簿の良いところを活用し、不具合は改善し、各人にあう、オリジナル家計簿作成のための方法論の確立が挙げられる。